



Title	退職記念号に寄せて
Author(s)	室橋, 春光
Citation	北海道大学大学院教育学研究院紀要, 124, 1-3
Issue Date	2016-03-25
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/60996">http://hdl.handle.net/2115/60996</a>
Type	bulletin (other)
File Information	AA12219452_124 (3).pdf



[Instructions for use](#)

# 退職記念号に寄せて

室 橋 春 光

2015年3月に、15年間にわたる勤務を終えて教育学部に別れを告げることになった。2002年4月から、諸冨 隆教授の後を受けて特殊教育・臨床心理学研究グループをまとめていくことになった。特殊教育講座の初代教授となられた奥田三郎先生は、臨床が基礎的研究の上に立つべきことの重要性を述べられ、それ以降、教室の関係者は基礎と臨床の連関を意識しつつ研究を続けてきた。

奥田教授のお考えは狩野 陽教授、北島象司教授にそれぞれ受け継がれ、さらに諸冨 隆教授に引き継がれて、視知覚機構の解明を中心とした基礎的基盤研究として発展してきた。他方で知的障害を中心とした臨床的実践も、古塚助教授を中心に行われた。その後、片山順一准教授と河西哲子准教授により、さらに事象関連電位を指標とした生理心理学研究が視知覚機能や認知機能を中心に進められた。私自身は知覚・認知的視点から基礎的基盤研究を、また発達障害を中心とした臨床的実践を2本の柱として続けてきたつもりである。研究室が脈々と続けてきたこのような試みが、今後の当該領域のひとつの基盤たり得るかどうかの判断は、後世に待つしかない。

本号は私の退官を記念して与えていただいた貴重な機会であって、教育学研究院研究推進委員会に感謝申し上げる。いわゆる退官記念講義は、私にとっては、研究もまだ途半ばで気の進むものではなかったが、学部を卒業して現場で活躍する若い教師、研究室の大学院生、あるいは大学院を修了して活躍する若い研究者たちが自らを語る場としても設定できればと考え、昨年2月から3月にかけて以下のシンポジウムを開催した。

2015年2月7日

「特別支援教育におけるギフト教育を考える～認知機能のアンバランスさと学習困難」  
(第1部)

「発達障害を持つ子どもたちの学習支援～北大土曜教室の学びからこれからの特別支援を考える～」(第2部)

(第1部では、教育学研究院附属子ども発達臨床研究センターの学外研究員である品川裕香氏にも話題提供をしていただいた。ここに記して感謝申し上げます)

2015年3月7日

「発達障害を考えるー生物学的基盤から社会的環境までー」(第1部)

「基礎研究から臨床へ」(第2部)

2015年3月21日

「臨床研究を通して土曜教室の意味を問う」(第1部)

「土曜教室～子どもたちから学んだこと」(第2部)

本号は、上記の3つのシンポジウムで話題提供をしてくださった若い人たちの論文と、私の基礎領域と臨床領域に関わる2本の論文で構成させていただいた。寄稿してくださった関係者に改めて感謝したい。

## 参考文献

- (本研究グループの礎を築かれた奥田、狩野、北島、諸富、古塚の各教員の、教育学部紀要に掲載された主要論文を掲げた)
- 奥田三郎 (1955) 問題児の社会的予後. 北海道大学教育学部紀要, 3, 1-14.
- 北島象司 (1964) 知覚統合過程による知能の研究: 知覚における情報処理過程の微視発生的分析によって知能構造を解明する試み. 北海道大学教育学部紀要, 10, 69-82.
- 北島象司 (1965) 知覚情報処理系としてはたらく心理学的機構の分析的研究. 北海道大学教育学部紀要, 11, 171-189.
- 奥田三郎 (1967) 臨床心理学における人の問題. 北海道大学教育学部紀要, 13, 3-41.
- 狩野 陽 (1967) 学習の基礎機構. 北海道大学教育学部紀要, 13, 43-73.
- 北島象司 (1967) 情報の冗長化と反応時間: 精神薄弱者の反応時間の分析. 北海道大学教育学部紀要, 14, 59-66.
- 狩野 陽, 北島象司 (1971) 視知覚の形成と衰退: 学習の基礎理論系と脳波資料の集積. 北海道大学教育学部紀要, 18, 1-47.
- 北島象司 (1978) 懐疑から確信へ: 選択的注意と慣れ. 北海道大学教育学部紀要, 32, 1-20.
- 北島象司 (1982) 注意についての覚え書. 北海道大学教育学部紀要, 41, 13-28.
- 古塚 孝, 竹形理佳, 二村さつき (1991) 初期経験剥奪の発達に及ぼす効果: 生後4年間, 保育器生活を余儀なくされた構音障害児の治療過程. 北海道大学教育学部紀要, 55, 57-80.
- Kitajima, S. and Murohashi, H. (1986) Visual evoked potentials and selective attention allocated to double stimuli. 北海道大学教育学部紀要, 48, 229-254.
- 狩野 陽 (1989) 心理臨床に見る治療の機転: 覚書-フロイト初期の治療体験と治療概念の成立. 北海道大学教育学部紀要, 52, 1-27.
- 狩野 陽 (1992) ひとつの学の道程: 大学院最終講義-教育学部に一研究者として過ごして. 北海道大学教育学部紀要, 57, 11-27.
- 諸富 隆 (1992) 視知覚と視覚誘発電位 (I). 北海道大学教育学部紀要, 57, 29-116.
- 古塚 孝 (1992) 障害児の早期療育とその発達神経心理学的考察: 脳の可塑性・初期経験・モジュール的脳構築論. 北海道大学教育学部紀要, 57, 117-140.
- 北島象司 (1995) 認知心理学論への生理心理学の寄与: 後悔先に立たず. 北海道大学教育学部紀要, 67, 1-5.
- 諸富 隆 (1995) 視知覚と視覚誘発電位 (II). 北海道大学教育学部紀要, 67, 195-217.
- 古塚 孝 (1995) 発達障害児療育の為の神経心理学的発達モデル構築の試み. 北海道大学教育学部紀要, 67, 219-238.



平成27年3月7日 退職記念祝賀会（京王プラザホテル札幌）にて